

## 第三章 栗野の宝

文化財とは、この国の長い歴史の中で生み育まれ、人びとによって守り伝えられてきた宝物です。

栗野にも多くの文化財があり、栃木県や鹿沼市の指定文化財になっています。「指定文化財」とは、文化財の中でも特に重要なものを共有の財産として守り伝えるための制度です。皆さんが思う文化財とは何でしょうか？神仏の像、社寺などの建物、工芸品、絵画、祭りなどの伝統行事……。

本章で紹介する、書状や印刷物など紙に残された記録類も歴史を伝える貴重な文化財です。



▲「栗野町真景」(部分)

## 北条氏邦からの手紙

栗野に多く残されている文化財の一つに下粕尾の常楽寺に伝わった「録事尊縁起関連資料」があります。七点から構成されるこの資料の中に、北条氏邦から出された朱印状（手紙）が残っています。

### ●北条氏邦

北条氏邦（一五四八～一五九七）は、相模国小田原を本拠にした戦国大名・北条氏康の子の一人です。永祿元年（一五五八）に武蔵国の国衆・藤田氏の婿養子となり、天神山城（埼玉県長瀨町）を居城としました。時期ははっきりしませんが、後に鉢形城（埼玉県寄居町）に移り、現在の寄居町周辺から秩父地域に及ぶ広大な鉢形領を支配します。

天正一八年（一五九〇）に、豊臣秀吉によって小田原北条氏が滅ぼされると、氏邦は能登国（石川県北部）に移されて、七年後に亡くなりました。

一見、栗野とは縁もゆかりもない北条氏邦ですが、なぜ氏邦の朱印状が常楽寺に残されているのでしょうか。

### ●糟尾荷雲齋が亡くなったので…

この朱印状は、縦は一四・七cm、横は七二・〇cmで、卷子装

（巻物）になっています。もともと、折紙（紙を横半分につつて、折り目を下に向けて書く書式）だったものを、後に巻物に仕立て直したと考えられます。

朱印状を受け取ったのは、糟尾伊心齋という人です。差出人の名前は記されていませんが、日付の部分に領民の幸福を願う「翁邦挹福」という朱印がおされています。これは北条氏邦が使った朱印なので、差出人は氏邦であることが分かります。年は干支の「子」しか書かれていませんが、天正一六年（一五八八）と推定されています。

その内容は、糟尾荷雲齋が亡くなったため、荷雲齋の子の伊心齋を、知行（領地や給与）を増やして家来に取り立てるといふものです。

### ●録事尊伝説と糟尾荷雲齋・伊心齋

平安時代末期から鎌倉時代初期の糟尾郷には、中野智玄という名医がいたという録事尊伝説（71ページ）は、古い時代の話ということもあって当時の記録は残っていません。

しかし、この朱印状からは、戦国時代の頃、粕尾に何らかのゆかりを持った荷雲齋・伊心齋という医師がいて、北条氏邦に仕えていたということが分かります。また、近年新たに、他にも糟尾を名字にする医師が戦国時代にいたことが分かりました。武蔵国児玉郡金屋村（埼玉県本庄市）の記録には、糟尾寿

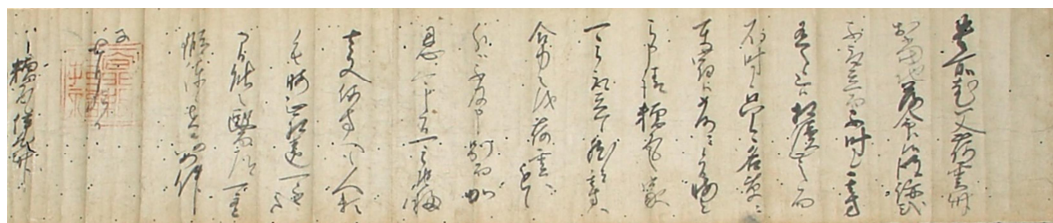
信齋と糟尾養信齋という医師が北条氏邦の病を治した、と書かれています。

なお、「録事尊関連資料」の中には、慶長九年（一六〇四）に、氏邦の旧臣で、当時は徳川家康に仕えていた水野長勝という人から意心齋（伊心齋）に宛てた手紙も残されています。北条家は滅びており、氏邦もすでに亡くなっていましたが、旧臣の間で交流があったことが分かります。

このように、氏邦の朱印状は、録事尊の伝説の一端を今に伝える貴重な文化財なのです。

#### 《参考文献》

『鉢形城主 北条氏邦』埼玉県立歴史と民俗の博物館、二〇二四年



貴所老父荷雲齋

於当地落命候、彼跡式

不取立而不叶候、其方

有之上ハ相統無之候而

不叶候、只今名草ニ

在宿ハ如何ニ候間、暇乞

被申請糟尾家

可被取立候、然者其方へ

合力之儀荷雲へ進候

分ハ不及申、別而加

恩可申候間、可被坐移候

去又何方へも人頼

候者暇無相違可遣候

間、能々医道可有

鍛錬候者、仍如件

子（朱印）

七月拾日

糟尾伊心齋

#### ▲録事尊縁起関連資料「糟尾伊心齋宛書状」

氏邦が伊心齋に、「当地」（上野国箕輪城〔群馬県高崎市〕と考えられる）において糟尾荷雲齋が亡くなったため、名草（現在の足利市）にいた伊心齋に糟尾家を継いで自分に仕えるように伝える内容。末尾に「よくよく医道たんれんを鍛錬するように」とあるので、伊心齋が医師であることが分かる。

## 発光路の大般若経

上粕尾の発光路には手で写された六〇〇巻のお経「大般若波羅蜜多經（大般若経）」が残されています。

大般若経は、般若経を集大成したもので、仏教のお経の中で最大のもので、唐の三蔵法師玄奘（六〇二〜六六四）が他のお経と共にインドから持ち帰り、六六〇年から四年かけて漢語に翻訳しました。日本では、国の無事を祈ったり、災いを祓って福を招いたりする効果があると信じられていました。

発光路の大般若経は、戦国時代の天文一八年（一五四九）、発光路にあった薬師堂に奉納されました。六〇〇巻が三個の経櫃に納められています。一巻ごとの長さは七m以上で、文字の総数は五〇〇万字にもなります。この大般若経を奉納した人や、奉納の理由はよく分かっていません。大般若経が入っている箱などに書かれた文字を見ると、正忠という人が願主、高橋治部少輔吉久の娘・鶴子という人が旦那（経を奉納するための寄付者）であることが分かります。言い伝えでは、吉久が鶴子の目の病気が治るように願って奉納したといわれています。

旧粟野町には、江戸時代より前の紙に書かれた資料があまり残っていないため、この大般若経は大変貴重であり、鹿沼市の指定有形文化財にも指定されています。

### ●大般若経の転読

大般若経を使った「転読」という行事があります。転読とは、大般若経の巻物の表題のみを読み上げることで真読（全文を読む）と同じ利益を得ようとするものです。量の多い大般若経は真読するのが難しいため、転読するのが一般的です。鹿沼市銀座二丁目の薬師堂では、新型コロナウイルス感染症が流行する令和元年（二〇一九）まで、毎年五月に転読を行っていました。銀座二丁目の大般若経は、江戸時代に広まった木版印刷による版本です。形も巻物ではなく折本（巻物を蛇腹に折った四角い本）になっています。そのためパラパラとめくりながら転読をします。



▲經櫃



▲大般若経

## 大正時代の栗野町を描いた「栗野町真景」

### ●鳥の目で栗野町を眺める

写真(次ページ)の絵図は、賀蘇山神社の大修繕の完了を記念して、大正一五年(一九二六)に描かれた栗野町の絵です。鳥が空から眺めているように描く「鳥瞰図」という形式で描かれています。手前右の清瀬橋から左に向かって描かれるのが、栗野町のメインストリート(現在の県道一五号鹿沼足尾線)。画面奥に向かって中栗野・入栗野の道沿い(現在の県道二四六号草久栗野線)の景色が続き、道の一番奥、画面左上には賀蘇山神社が描かれています。メインストリート沿いには多くの商店が軒を連ねており、活気にあふれた様子が分かります。栗野第一尋常高等学校(現在の栗野小学校)や城山公園・町役場・火の見やぐら・社寺などのランドマークも確認できます。

### ●鳥瞰図絵師 松井天山

この「栗野町真景」を描いたのは松井天山という鳥瞰図専門の絵師です。本名は松井哲太郎といい、明治の末から昭和前期まで活動しましたが、詳しい経歴はよく分かっていません。栃木県内でも栗野町の他に、鹿沼町(現在の鹿沼市役所周辺)や宇都宮・今市・日光・那須塩原・大田原などでいくつかの作品が見つかっています。

松井天山の鳥瞰図の特徴は、ひとつひとつの建物が識別できるように緻密に描かれ、名前も表示していることです。そのため、絵として美しいだけでなく、当時の町並みを知ることができる歴史資料でもあります。

天山が栗野町で鳥瞰図を描いた理由は、「栗野町真景」の裏面に書かれています。それによると、かつて天山は宇都宮の光彰館という会社で神社仏閣の絵を書いており、そのときに一緒に仕事をした廣瀬楞厳という人が栗野に住んでいたそうです。天山が二〇数年ぶりに廣瀬を訪ねると、廣瀬からちようど賀蘇山神社の大修繕が終わったので、案内図を出版したいと頼まれたため、快く引き受けたとあります。裏面には、これらの経緯とともに、出版にあたってお金を出した材木商や酒屋・お菓子屋・靴屋・旅館・写真館・雑貨屋・洋服店・呉服店・染め物屋・書店など多種多様な商店の広告が掲載されています。

このように「栗野町真景」は、表面も裏面も大正末期の栗野の様子を生き活きと伝える貴重な資料です。鹿沼市のホームページ「鹿沼デジタルアーカイブ」でも見る事ができるので、じっくり観察して栗野の歴史を堪能してください。

### 《参考文献》

中西僚太郎編『近代日本の視覚的経験―絵地図と古写真の世界―』ナカニシヤ出版、二〇〇八年

楊木縣堅真町及景真寨內圖



## ◎栗野の指定等文化財一覧

令和8年（2026）3月現在、鹿沼市には207件の指定等文化財があり、そのうち栗野にあるものは81件になります。

指定	種別	名称	年代	所有者
国(登録)	有形(建造物)	旧栗野中学校校舎	昭和	鹿沼市
県	有形(建造物)	医王寺 金堂	江戸	医王寺
県	有形(建造物)	医王寺 本堂内春日厨子	江戸	医王寺
県	有形(建造物)	医王寺 唐門	江戸	医王寺
県	有形(建造物)	医王寺 大師堂	江戸	医王寺
県	有形(建造物)	医王寺 客殿	江戸	医王寺
県	有形(建造物)	医王寺 講堂	江戸	医王寺
市	有形(建造物)	賀蘇山神社 遥拝殿	江戸	賀蘇山神社
市	有形(建造物)	森薬師堂	江戸	森自治区
市	有形(建造物)	小松神社 本殿	江戸	小松神社
市	有形(建造物)	常楽寺 録事堂	江戸	常楽寺
県	有形(絵画)	絹本著色 封候図	江戸	医王寺
県	有形(絵画)	黒漆椽杉板襖絵	江戸	医王寺
市	有形(絵画)	紙本淡彩 花鳥図《小杉放菴》	江戸	個人
県	有形(彫刻)	木造 薬師如来坐像	平安	医王寺
県	有形(彫刻)	銅造 地藏菩薩半跏像	江戸	医王寺
県	有形(彫刻)	木造 聖徳太子立像	江戸	医王寺
県	有形(彫刻)	金銅 誕生仏像	江戸	医王寺
県	有形(彫刻)	木造 弘法大師坐像	鎌倉～南北朝	医王寺
県	有形(彫刻)	木造 狛犬	鎌倉	医王寺
県	有形(彫刻)	木造 金剛力士立像	鎌倉	医王寺
県	有形(彫刻)	木造 不動明王および二童子像	鎌倉	医王寺
県	有形(彫刻)	木造 吉祥天立像	鎌倉	医王寺
県	有形(彫刻)	木造 毘沙門天立像	鎌倉	医王寺
県	有形(彫刻)	木造 薬師如来及び両脇侍像	鎌倉	医王寺
県	有形(彫刻)	木造 十一面観音菩薩立像	平安	医王寺
県	有形(彫刻)	木造 弥勒菩薩坐像	鎌倉	医王寺
市	有形(彫刻)	木造 森薬師堂本尊薬師如来坐像	江戸	森自治区
市	有形(彫刻)	木造 森薬師堂月光菩薩立像	江戸	森自治区

指定	種別	名称	年代	所有者
市	有形（彫刻）	木造 足摺観音坐像	江戸	中新田自治区
市	有形（彫刻）	木造 寄居聖観音菩薩立像	江戸	久野地区
市	有形（彫刻）	木造 十二神将立像	江戸	医王寺
市	有形（彫刻）	木造 地藏菩薩半跏像及び胎内仏	江戸	慈眼寺
市	有形（彫刻）	木造 聖観音菩薩坐像（本尊）	江戸	慈眼寺
市	有形（彫刻）	妙見立像 附台座及び厨子	江戸	妙見神社
市	有形（彫刻）	木造妙見菩薩立像（武将形）	南北朝	妙見寺
市	有形（彫刻）	木造妙見菩薩倚像（童子形）	南北朝	妙見寺
県	有形（工芸品）	銅製鰐口（医王寺）	室町	医王寺
県	有形（工芸品）	金銅 透彫華籠	江戸	医王寺
県	有形（工芸品）	金銅 透彫華鬘	江戸	医王寺
県	有形（工芸品）	金銅 五鈷杵	南北朝	医王寺
県	有形（工芸品）	法要仏具	戦国	医王寺
県	有形（書跡）	理趣経版木	室町	医王寺
県	有形（書跡）	般若心経版木	室町	医王寺
市	有形（書跡）	大般若経	安土桃山	発光路自治区
県	有形（考古資料）	医王寺宝篋印塔	鎌倉	医王寺
県	有形（考古資料）	医王寺五輪塔	鎌倉	医王寺
市	有形（歴史資料）	天保の裁許絵図	江戸	鹿沼市
市	有形（歴史資料）	算額	江戸	医王寺
市	有形（歴史資料）	附法状	安土桃山	医王寺
市	有形（歴史資料）	餅板	戦国	今宮神社
市	有形（歴史資料）	明治の地租改正関係文書	明治	鹿沼市
市	有形（歴史資料）	懸仏	戦国	天満星宮神社
市	有形（歴史資料）	懸仏、木製カワラケ及び木製厨子	室町～江戸	今宮神社
市	有形（歴史資料）	光明寺 梵鐘	江戸	光明寺
市	有形（歴史資料）	医王寺半鐘	江戸	医王寺
市	有形（歴史資料）	妙見寺半鐘	江戸	妙見寺
市	民俗（有形）	双体道祖神（田ノ端）	江戸	発光路自治区
市	民俗（有形）	双体道祖神（半縄B）	江戸	個人
市	民俗（有形）	双体道祖神（半縄A）	江戸	個人
市	民俗（有形）	双体道祖神（栃原）	江戸	個人

指定	種別	名称	年代	所有者
市	民俗（有形）	双体道祖神（細尾）	江戸	個人
市	民俗（有形）	録事尊縁起関連資料	安土桃山～江戸	常楽寺
国	民俗（無形）	発光路の強飯式	江戸	発光路強飯式保存会
市	民俗（無形）	尾出山神社関白流獅子舞	江戸	尾出山神社獅子舞保存会
市	民俗（無形）	賀蘇山神社関白流獅子舞	江戸	下五月自治会
市	民俗（無形）	賀蘇山神社関白流獅子舞	江戸	尾ざく自治会
市	民俗（無形）	小松神社天下式関白流獅子舞	江戸	関白流獅子舞久野獅子連
市	民俗（無形）	日渡路かんだ踊り	江戸	日渡路自治区
市	民俗（無形）	録事尊の村廻り		粕尾地区
市	史跡	粟野城跡	安土桃山	粟野財産区
市	史跡	戸木内遺跡	弥生	個人
市	史跡	通順坊平巴の宿		粟野財産区
県	天然記念物	粟野のカヤ		個人
市	天然記念物	日光神社社木豊年杉		日光神社
市	天然記念物	叶台カヤの木		清滝寺
市	天然記念物	横根山井戸湿原		粟野財産区
市	天然記念物	賀蘇山神社大杉切株		賀蘇山神社
市	天然記念物	浅間神社鍾乳洞		御嶽教会
市	天然記念物	横根山の岩海		粟野財産区
市	天然記念物	尾出山神社のモミ		尾出山神社

## ◎「広報あわの」に残された笑顔

昭和36年(1961)に創刊され、平成17年(2005)12月号で終刊した「広報あわの」。全489号の紙面を飾った町民たちの写真は、時代や世相を映す貴重な資料です。



### ▲北半田季節保育所の子どもたち(昭和38年7月10日号)

季節保育所は、農繁期など季節的に繁閑<sup>はんかん</sup>がある地域に設置された保育施設。昭和32年の厚生事務次官通知により整備されたが、農林水産業の合理化や兼業農家の増加等によりやがてそのニーズは減少した。広報あわの(昭和36年7月10日号)によると、6月に20日間開設され、清洲第一小(74人)、粕尾第一小(49人)、永野第一小(67人)と大きな成果を上げた。



### ▶プールで遊ぶ子どもたち(昭和38年9月10日号)

昭和38年7月に粟野中入口(第一)と清洲第一小跡(第二)に町民プールが整備された。日平均利用者は第一プールで150人、第二で230人とあり、夏場は連日多くの子どもたちで賑わった。



▲赤ちゃんの集合写真（昭和39年6月5日）

落合忠太郎町長のアルバム所載の1枚。ベビーコンクール入賞の記念写真と推測される。この時表彰された赤ちゃんは15名。後列中央が落合町長。ベビーコンクールは乳幼児の健康診断を兼ねて毎年実施されていた催しで、戦後全国的に広まったが、母子保健施策の変容とともに1960年代に終焉を迎えた。



▶成人式会場にて喜びの顔（昭和44年1月20日号）

当時、成人の日は1月15日だった（1月の第二月曜になったのは2000年の法改正以降）。この日中央公民館に参列した成人者は348人。女性は洋服姿が多い。同号では成人者412名の氏名が紹介されている。



▲おしくらまんじゅうする子どもたち（昭和49年2月号）。

場所は粟野第二小学校。町人口は昭和49年2月1日現在において、11,541人（男5,626人、女5,915人）を数えた。



▲わら鉄砲を打つ子どもたち（昭和59年10月号）

「十三夜のわら鉄砲 大麦・小麦 大豆も小豆もよくあたれ 三角畑のそばあたれ」と唱和してわら鉄砲を地面に打ちつける。豊作を祈願し行われた。口粟野上仲町にて。



▲みこしを担ぐ子どもたち（昭和59年8月号）

7月29日に北半田コミュニティ推進協議会により行われた「ふるさと親子みこし祭」の一場面。大小2台のみこしの大きい方を大人が、小さい方を子どもが担ぎ各自治区の会所を廻った。